

# 研修履歴の保持、情報の開示、 評価の時代が到来します



一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 **安家 周一**

(一財)全日私幼研究機構(以降、当機構)の理事長を拝命してから2年近くの時間が過ぎました。大いなる反省の残った横領事件を経験し、社会的な信頼が失墜する中においても、「幼稚園に集う子どもと保護者と保育者のウェルビーイングの構築」を目標に掲げ、時代の変化に対応し、独自性と多様性に基づいた公教育としての幼稚園、認定こども園を希求することを使命として、活動を推進しております。

## 1) 幼児教育研修システム「ゆたかなまナビ」による研修ライブラリーと研修履歴保全システム強化の構築

オンデマンドやオンラインの研修コンテンツの有用性が一般の教職員にも浸透してきました。コロナ禍の影響もあって対面で集まることが難しいという条件も重なり、地区教育研究大会でもオンラインが目立つようになりました。

そのような状況変化の中で、当機構では2022年3月から試験的に無料の研修動画を配信し、受講後に簡単な確認試験を経れば研修スタンプの発行が可能なオンライン研修を実施した結果、短期間に約600人に及ぶ受講が確認され、研修スタンプを発行しました。また、今後のライブラリー構築を目指して全日私幼連の各地区から“ゆたかなまナビプロジェクトチーム要員”を募り、地区で開催された地区教育研究大会等の優良な研修動画を推薦いただき、全国の教職員が視聴し、学べるライブラリー、「ゆたかなまナビ」に格納するシステム構築に向けて動き始めています。

## 2) 研修俯瞰図の改定と育成指標

研修俯瞰図の改定作業にも着手中です。幼稚園・認定こども園における栄養管理や喫食、衛生、バスや行事の安全危機管理、特別支援保育テキストを監修発刊するなど、新たな課題を網羅する研修俯瞰図の見直しに取り組んでいます。検討チームには研究研修委員に加え、研修俯瞰図作成当初からかかわりのある藤本明弘先生(京都・嵯峨幼稚園)や神長美津子先生(國學院大學人間開発学部名誉教授)箕輪潤子先生(武蔵野大学教育学部教授)に加え、野澤祥子先生(東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター准教授)のご意見を

参考にしながら、文部科学省委託研究として本年度中を目途に見直しを進めています。

## 3) 処遇の改善と第三者評価に備えて

施設型給付園においては、いよいよ自治体監査で研修の要件の確認が始まります。それに備えて、マネジメント分野の15時間パックの研修を(一社)相模原市幼稚園・認定こども園協会様のご厚意により受講が可能になりました。今後も次々に研修受講確認が必要となることから、益々研修の充実が求められています。

また、幼児教育の無償化が実現し、私学助成園であっても多額の公費が施設に注がれるようになっていきます。必然的に、幼児期の公的教育施設としての評価が必然となります。施設形態は私立と国公立に区分されてはいますが、双方とも公的教育施設で、教育内容や運営についてはパブリックが求められます。当機構が開発したECEQ<sup>®</sup>の手法を使った園の質改善評価の有用性が、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)の研究によって明らかになり、今後ますます都道府県ごとのコーディネーターの養成が急がれます。また、教員の資質向上に対する評価は、研修履歴の公的保証が不可欠で研修ハンドブックの研修履歴が重要な質向上の根拠となり得ます。来るべき時代を見据えて、研修受講⇒本人確認⇒履歴の蓄積⇒研修スタンプの発行/研修ハンドブックに受講根拠を残すことなどが必要となります。各都道府県団体とも逐次連携を取り合い、1園たりとも取りこぼすことのないよう努力します。

当機構として、研究研修委員会・調査広報委員会、専門部会、理事、評議員、事務室一丸となつてと共事業を推進します。ご協力をよろしくお願ひします。



## ここがポイント

# 子どもの困り感に寄り添う 支援について



千葉大学教育学部 特命教授／**富田 久枝**

私は20余年、千葉縣市川市で幼稚園教員として、実践の中で「特に配慮を要する子どもたち」への支援を行う中で多くの子どもたちの「困り感」に出会い、それが私の保育者としての人生を大きく豊かで美しく変えてくれました。

### ◆現代の子どもを取り巻く環境とその課題

子どもを取り巻く環境は少子高齢化、核家族化、女性の社会進出などメディアでその課題が取り上げられています。特に少子化と核家族化は子どもの発達に大きな影響を及ぼしました。発達には特に親子関係、きょうだい関係が大きな影響力を持っています。しかし、少子化は親やきょうだいから学ぶ機会を激減させました。

### ◆保育現場で見かける子どもたちの心配な姿

私は、現在、大学教員として保育現場の発達相談をしています。その発達相談で見かけるのは基本的な生活習慣の獲得が遅れている「①生活できない子ども」、人間関係作りが不器用で社会性の発達に課題がある「②遊べない子ども」、生活基盤である家庭の貧困や虐待で人権や命が危ぶまれている「③生きられない子ども」の姿です。どの子どもたちも大きな「困り感」の中に居ます。

### ◆配慮を要する子どもたちの「困り感」とは

このような子どもたちを理解して、それぞれの子どもたちの特性に寄り添いながら支援する保育者の仕事は本当に大変です。その大きな理由は発達の特性でその「困り感」は違うからです。そのため、子どもたちの特性をよく理解することが、それぞれの子どもたちの「困り感」＝発達特性を理解でき、支援方法も見いだせるのです。

代表的な配慮の必要な子どもたちの「困り感」を考えてみましょう。注意欠如・多動症は落ち着けず動き回る「多動性」、急な刺激に反応してしまう「衝動性」、様々な刺激に突き動かされ集中できない「不注意」の3つの特性があります。自身をコントロールが出来ないことが本人の「困り感」なのです。それでは自閉スペクトラム症はどうでしょう。社会性と想像性、コミュニケーションが上手いかないという障害の特性があり、それが「困り感」で、対人関係も苦手だったり、接し方も瞬時に判断が出来ないため本人は辛いですね。

### ◆子どもの自己肯定感を高めるためのコミュニケーション：インリアルアプローチ

このような「困り感」は子どもの個性と結びついて理解することは容易ではありません。そのためには、コミュニケーション技法を活用して対象の子どもとの心の繋がりを深めてみませんか。

このアプローチはアメリカで研究・開発され大阪教育大学の竹田契一名誉教授らが導入しました。その基本姿勢は「SOUL」です。Sは「Silence」で子ども自身から行動を始められるように見守ります。Oは「Observation」で、子どもの行動や気持ちを観察して理解します。Uは「Understanding」で、子どもの行動の意味を深く理解しかかわりを考えます。Lは「Listening」で、子どもからの言葉や表情、行動に目や耳を傾けることです。この基本姿勢を基に「言語心理学的技法：7つの技法」が構成されています。早速、紹介しましょう。1つ目は「ミラーリング」という技法で子どもの行動をそのまま真似ます。例えば、子どもが指差しをしている場面に遭遇したら、その子どもとコンタクトを取るように言葉を添えて同じ動作の指差しを真似します。2つ目は「モニタリング」という技法で子どもの発した音声や言葉を真似ます。3つ目は「パラレルトーク」という技法で子どもの気持ちや行動を保育者が言語化します。こちらも例えるなら拍手をしている子どもと平行して（パラレル）「パチパチ」とアイコンタクトを取りながら言語化の見本を伝えます。4つ目は「セルフトーク」という技法で大人（保育者）の気持ちも言葉で伝えます。5つ目は「リフレクティング」という技法で子どもの誤った言葉に対して正しい言葉で大人が代わりに言い直し見本を示します。6つ目は「エキスパンション」という技法で子どもの言葉の意味を広げる関りで「ぶーぶーだ！」という言葉で「赤いぶーぶーだね」と2語や3語でします。最後の7つ目は「モデリング」という技法で言葉の手本を示します。

私は巡回相談の依頼が入ると7つのこの技法を用いて、初めて出会う「困り感」いっぱいの子どもの仲良しになります。みなさんも子どもの「困り感」に寄り添い、子どもの心の扉に優しくタッチしましょう。



## 取り残し事故を防ぐために

名寄市立大学 特命教授／猪熊 弘子

2学期が始まり、再び元気な子どもの声が聞こえるようになったばかりの9月5日、とても悲しい事故が起きてしまいました。幼保連携型認定こども園の園バスに取り残された年少の女の子が5時間後に心肺停止の状態で見つかり、その後死亡が確認されたのです。その後の園の記者会見の様子を含め、この事故について多くのメディアで大きく報道されたことから、「うちの園は大丈夫だろうか？」と安全確認の方法について改めて職員間で確認した園も多かったのではないのでしょうか。

この事故は多くのミスが重なって起きたものでした。園の記者会見では4つのミスがあったと発表されました。①バスから降りた園児の名前と人数を確認していなかったこと、②園児がバスを降りた後、取り残されている園児がいないか、運転手と添乗員が確認しなかったこと、③職員がアプリで最終の登園情報を確認していなかったこと、④当該園児がクラスにいないことを保護者へ問い合わせなかったこと。いずれも初歩的なミスであり、どれか1つでも確実にできていれば、最悪の状況は防げたと考えられます。

実は保育・幼児教育施設における死亡事故等の重大事故のほとんどが、こういった初歩的なミスが偶然重なったことで起きています。誰か1人の職員がミスしたことが重大事故につながることはほぼありません。もともとこの園の保育のやり方や運営方法に問題があったり、確認の仕方が間違っていたりすることが、重大事故につながってしまうのです。

今回の事故では大きく2つのことが争点になっています。一つは「取り残し」そのものについて、もう一つは「取り残し予防装置」についてです。

まず、取り残しについてですが、園バスへの取り残し事故は、これまでに何度も起きています。昨年7月、福岡県中間市の私立認可保育所で5歳児が亡くなった事故は記憶に新しいところですが、お隣の北九州市で2007年に認可外保育施設で2歳児が亡くなる事故が起きています。死亡には至らなかった取り残しは枚挙に暇がありません。バスだけではなく、2005年には埼玉県内の公立保育所で4歳男児が本棚の下の引き戸の中に入り込み、熱中症で亡くなる事故が起きています。拙著『死を招いた保育』に詳しく記していますが、「自由遊び」とよばれていた時間に、どの子がどこで遊んでいるかは

把握されておらず、男児がどのような状況で引き戸の中に入り込んだのか、わからないままでした。子どもたちが引き戸の中に入って遊んでいることを8人もの保育士が知りながら、何の対策を行っていなかったことも一つの要因でした。ほかにも、お散歩に行った公園に子どもを置き去りにしたり、園から抜け出た子どもに気づかず子どもが川で溺れるという事故も起きています。子どもの動静を把握した上で「場面が変わるごとに子どもの人数を数える」というのは保育の基本中の基本です。各園でもう一度、特に若い職員に確実に人数を数える方法を伝えた上で、全員で人数把握の方法や、不在が確認された場合の連絡方法を再確認して欲しいと思います。

もう一つは「取り残し予防装置」についてです。すでに韓国などでは設置が義務化されていますが、今回の事故を受けて日本でも設置が義務化されることとなり、2022年度第2次補正予算案に関連経費を計上する方針と報じられています。具体的には園バスのエンジンを切ったあと、数分以内に車の後部に設置されたボタンを押さないとブザーなどの警報音が鳴るなどの装置で、職員はブザーが鳴らないように毎回必ず車の後部まで行くため、万が一取り残した子どもがいても発見できるというものです。しかし心配なのは、ただボタンを押して警報音を鳴らさないことだけが目的になってしまうのではないかという点です。この装置の導入目的は、あくまでも座席に子どもが残っていないかどうかの確認を行うためです。装置が導入されても、職員は毎回バスの後ろまで行ってボタンを押す際に、目視+指さしでしっかり子どもの取り残しがないか、座席の下まで確実に確認しなければなりません。

保育は人間の営みである以上、ヒューマンエラーは必ずつきものです。機械はエラーを補うものに過ぎません。職員同士の信頼関係に基づくつながりをもとに二重、三重の確認を行い、ヒューマンパワーでそれらのエラーを防いでいくしかありません。改めて今、基本中の基本に立ち返り、園児を守るために保育者がしなければならないルールの徹底をしていくことが最も必要なのです。

# 全国から約600名が参加 基調講演、口頭発表、ポスター発表をオンラインにて開催

令和4年8月20日、第13回幼児教育実践学会が開催されました。鳴門教育大学において2日間の対面にて開催する予定でしたが、コロナ禍の状況を考慮し、オンデマンドとオンラインを併用して行われました。幼稚園ナビを通し36都道府県から201園の申込があり参加者は600名を超えるものとなりました。

基調講演は鳴門教育大学教授及び准教授による3つのテーマを基にした6つの講演をオンデマンド配信により(8/1～8/31)行われました。参加者からは、今学びたいことが連続講座のように学べ、知りたいことを繰り返し視聴でき理解が深まった、自分の都合の良い時間にリラックスして学ぶことができた、などの感想が寄せられました。

## ◆基調講演Ⅰ：「写真や事例から学ぶ保育の環境構成スキルアップ」

○「『幼児と共に創造する保育環境』を考える」  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授/塩路晶子氏  
○「遊びひたる保育環境とは」  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授/湯地宏樹氏

## ◆基調講演Ⅱ：「“こどもがまんなかの”の幼児教育を実践するために」

○「遊びに誘う環境が育む、幼児の非認知能力と主体性」  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授/佐々木晃氏  
○「幼児期の遊びが促す小学校での学びと育ち」  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授/木下光二氏

## ◆基調講演Ⅲ：「子どもたちの豊かな学びを支える保育を目指して」

○「子どものウェルビーイングを高める保育」  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授/木村直子氏  
○「子どもの学びを支える保育者の同僚性」  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授/田村隆宏氏

8月20日の開会式では、(一財)全日私幼研究機構安家周一理事長より挨拶がありました。つづいて岡本和貴研究研修委員長より趣旨説明があり、その後、鳴門教育

大学佐古秀一学長よりビデオレターにてご挨拶を頂戴しました。つづいて、令和3年度優秀教員表彰者の発表が行われ、教育実践活動、研究成果等の実践活動において優れた成果をあげられた5名が受賞されました。

- 三重県 ・学校法人桔梗が丘学園梅が丘幼稚園/奥田裕子園長
- 兵庫県 ・学校法人七松学園認定こども園七松幼稚園/志方智恵子副園長
- 和歌山県 ・学校法人法輪学園認定こども園湯浅幼稚園/上田美奈子副園長
- 大阪府 ・学校法人高槻双葉学園幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園/伊藤奈央主幹教諭
- 鹿児島県 ・学校法人鹿児島竜谷学園幼稚園型認定こども園和光幼稚園/三月田智子主幹教諭

口頭発表では、午前午後と合わせて15園が各園の実践を発表しました。参加者各自で発表の配信動画を視聴した後、Zoomを用いてリアルタイムで討議・質疑応答の時間を持ちました。オンライン上ではありますが、実践をしている者同士、実践をたたえ合ったり、質疑応答の中で学びの幅が広がったりとつながりを感じられる口頭発表になりました。

ポスター発表は、発表内容をスライド10枚程度にまとめたものを事前配信し、当日は30の発表園がそれぞれでZoomを立ち上げて討議の時間を持ちました。対面での発表のようにはいきませんでした。発表園も参加者も主体的に、熱い学びの時を持ってました。

全ての討議終了後、宮下友美恵副理事長の「目まぐるしく変化する社会の中で悩みながら保育にあたっている先生もいるかもしれませんが、自分が成長する課題と捉え、それを園の先生たちと園の課題として共有し、その課題に向けて実践を積み重ねることは大切なことです。そんな生きた実践を1年後の実践学会で発表し多くの仲間と学びを深めていければ素晴らしいと思います。」と閉会の挨拶をもって終了しました。

 snapsnap スナップスナップ

お問い合わせ  
ご相談はこちら



## 自然な表情を撮影して 新たな価値提供を

園でのおさまの日常を保護者さまに写真でお届け!「スナップスナップ」はカメラマンや先生の撮影をサポートします

自動撮影カメラ  
貸出無料



ECEQ<sup>®</sup>のこれまでとこれから一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 ECEQ<sup>®</sup>専門部会長／岡本 潤子

(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構(以下、当機構)は、私立幼稚園における学校評価推進のための研修の在り方に関して、平成20年度より文部科学省からの委託を受け研究を開始しました。学校評価に対する私立幼稚園の意識や実行の実態分析を通して、私立幼稚園のための学校評価ハンドブックを作成するなど研究を進める中で、平成23年度の委託研究においては、幼稚園にとって馴染みのある公開保育を活用することにより、第三者の視点を通して保育を振り返ることで、自園の良さや課題を客観的に認識することができるのではないかと。また、そこには支援者が必要であることに着目しました。現在のECEQ<sup>®</sup>の芽生えがここにあります。

平成24年度からは、園改善の支援者としての公開保育コーディネーターに求められる資質と役割にも言及し、ECEQ<sup>®</sup>の基となるシステムの構築が始まりました。幼児教育の重要性が世界的に認識され、その質向上のために各国で開発された評価スケールにおける実践報告が日本にも紹介されるなど、私たちも刺激を受けていた時代です。そのような中、日本の幼児教育を支える当機構は「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」という、日本の幼児教育においては研修会等にて実施してきた公開保育という視点を用いて、システムの充実に向けて実践と研究を積み重ねてきました。平成25年度からはこのシステムの核となる公開保育コーディネーターの養成を始め、養成講座に関する研究も新たな課題となりました。平成29年度には「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」に親しみやすい呼称として、ECEQ<sup>®</sup>(Early Childhood Education

Quality System.)と名付け、ECEQ<sup>®</sup>を構成する全STEP(STEP 1からSTEP 5)において、ECEQ<sup>®</sup>を適正かつ健全に実施し、実施園を支援する役割を担う公開保育コーディネーターを「ECEQ<sup>®</sup>コーディネーター」と改め、ECEQ<sup>®</sup>の仕組みをわかりやすく、親しみやすく示したリーフレットを作成しました。令和の時代に入ってから、ECEQ<sup>®</sup>の効果を検証するために、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(以下、Cedep)に委託してECEQ<sup>®</sup>の中立的・客観的評価を実施、またECEQ<sup>®</sup>紹介動画を作成するなど、全国への普及に努めてきました。

昨年度からは当機構内にECEQ<sup>®</sup>専門部会を立ち上げ、全国11地区にECEQ<sup>®</sup>専門部会員をそれぞれ配置しました。そこではECEQ<sup>®</sup>の目的や意義をわかりやすく各地区へ伝え、ECEQ<sup>®</sup>を全国に普及させるための仕組み作り、およびECEQ<sup>®</sup>コーディネーター養成に関する事項の再構築を目的としています。今年度は、ECEQ<sup>®</sup>コーディネーター養成講座の内容の精査を行



私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。

Gakken

ひかりのくに

フレーベル館

世界文化ワンダー販売

JAKUETS

Child  
チャイルド本社

い、養成カリキュラムを再構築すること、現任ECEQ<sup>®</sup>コーディネーターのためのフォローアップ研修の仕組み作り、そしてECEQ<sup>®</sup>実施に際して地域差が生じている現状から、各地区の特性や状況に応じたモデル案の作成を目標としています。

そのため、令和4年度文部科学省委託研究を通してECEQ<sup>®</sup>コーディネーター養成講座の内容を精査し、講座テキストを新たに作成、またコロナ禍によりこの2年間は養成講座を実施することができなかったことから今年度はオンラインにて実施できるよう、養成講座の動画を鋭意制作中です。さらに、令和元年度と令和2年度の2年間にわたり実施したCedepによるECEQ<sup>®</sup>の質的検証結果をコンパクトにまとめ、ECEQ<sup>®</sup>のさらなる普及のためのリーフレットを作成予定です。

全国の幼稚園等がECEQ<sup>®</sup>を実施することにより、ECEQ<sup>®</sup>コーディネーターと共に園内研修を行い、STEP4公開保育で参加者と共に実施園の「今」を語り合う中で得られる成果は、一般の公開保育とは異なり、保育者間の同僚性を深め、また新たな関係性を育むことができるECEQ<sup>®</sup>独自のものと言えます。コロナ禍によりこの数年ECEQ<sup>®</sup>を実施する園は限られてはいますが、自園の質向上に取り組むことは日本の幼児教育の質向上に寄与することでもあり、子どもたちの幸せに直結することです。「やってよかったECEQ<sup>®</sup>」を体感いただけるよう、ECEQ<sup>®</sup>専門部会において今後も継続的に研究を深めて、ECEQ<sup>®</sup>が日本を代表する評価スケールに成長できるよう、そして高度な質が求められる時代に当機構が自信を持って全国の幼稚園等の皆様におすすめすることができるシステムであるよう、研究に邁進してまいりたいと思っております。

ECEQ<sup>®</sup>へのご理解をどうぞよろしくお願いいたします。

## ECEQ<sup>®</sup>をお知りになりたい方は 動画やリーフレットを ご活用ください！

「ECEQ<sup>®</sup>のこれまでとこれから」を本号で紹介いたしました。当機構ホームページでは、ECEQ<sup>®</sup>についてリーフレットや紹介動画を掲載しております。

紹介動画はイラストやナレーションを交えながら、わかりやすく説明をしておりますのでこの機会に是非ご視聴ください。

また、ECEQ<sup>®</sup>の詳しい内容を知りたい方も当機構ホームページにおいて、実施要項を始め様々な資料を掲載しておりますのでご覧ください。過去に実施された私立幼稚園・認定こども園も掲載しておりますのでご参考にさせていただきます。

### 【ECEQ<sup>®</sup>紹介動画】



全日私幼研究機構ホームページ  
<https://youchien.com/>

私達は衝撃緩和帽の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます！

ゴツン!! から、  
まもってあげたい。



企画・開発 株式会社リード

〒028-6104

岩手県二戸市米沢字家ノ上39-1

<http://hot-anshin.com//index.php>

お問い合わせはこちら

安心帽販売

TEL 090-8644-5654

FAX 042-563-8907



# 機構からのお知らせ

## ★ゆたかなまナビを通じ、オンデマンド研修コンテンツを追加配信します★

まなびの広場8月号（令和4年8月10日発行）において、本プロジェクトについて紹介いたしました。現在、第一期より開設しているコンテンツを常時配信中です。これらのコンテンツは随時、研修スタンプを発行しておりますのでご受講を是非ご検討ください。詳細は幼稚園ナビに掲載しております。

また、現在、各地区、各都道府県で開催した研修動画を収集し、それらを全国の教職員の皆様にお届けすべく検討を重ねています。**令和4年11月から2月まで新たに各地区、各都道府県から選りすぐりのコンテンツを配信させていただく予定とし、準備をすすめています。**皆様には10月中に幼稚園ナビ等を通じてご案内を予定しています。既に幼稚園ナビに教職員登録をされている方は本案内が受信いただけるようメールアドレスのご確認をお願いします。また、幼稚園ナビにご登録されていない方は下記QRコードよりご登録できますので、この機会に是非ご登録をお願いします。

【幼稚園ナビ・教職員登録について】



【まなびの広場8月号デジタル版】



## 『こどもがまんなかしんぶん』の特別号を配付しました 賛助会員の入会申込は随時受付しています！

当機構の賛助会費の御礼として配布している『こどもがまんなかしんぶん』は、全日本私立幼稚園PTA連合会より、こどもがまんなかしんぶん発行事業の趣旨にご賛同いただいたことを受け、より多くの保護者の方に読んでいただきたい内容であったため、9月に特別号と位置付け、増刷し加盟全園に配付いたしました。9月20日から10月5日に各園に発送しております。

賛助会員の入会につきましては随時募集を行っておりますので、ご入会を希望される場合は、下記記載のURLの賛助会員入会申込書の提出によりお申込みをお願いいたします。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

### 【賛助会員について】

- 会費：10・年間250円
- 入会特典：年11回のこどもがまんなかしんぶんのお届け（8月休刊、紙媒体7回、デジタル配信4回）
- HP：<https://youchien.com/publication/pta/>



こどもの笑顔に勝る制服はない。

株式会社 矢部スロカッティンク

URL:<http://www.seagull-yabe.co.jp> E-MAIL:[yabepro@seagull-yabe.co.jp](mailto:yabepro@seagull-yabe.co.jp)

本社	〒241-0821	横浜市旭区二俣川 2-85-2	TEL 045-363-6871	FAX 045-361-3085
東京支店	〒179-0084	東京都練馬区氷川台 3-21-14		TEL 03-6281-0025
千葉支店	〒276-0026	千葉県八千代市下市場 1-13-8		TEL 047-481-7723
埼玉支店	〒330-0604	埼玉県さいたま市大宮区桜の内町 2-1-1		TEL 048-640-3003
仙台支店	〒981-3131	宮城県仙台市泉区泉中央 1-47-1 アコーズ泉中央 103		TEL 022-218-3217
大阪支店	〒653-8104	兵庫県西宮市天濠町 25-15 KIマンション 1F		TEL 079-869-6510
札幌営業所	〒007-0834	札幌市東区北 34 条東 14 丁目 3-1 マンション東堂 1F		TEL 011-712-8088
福岡営業所	〒811-0214	福岡県福岡市東区和白菜 2-14-28 エクセル和白 103		TEL 092-606-5080
名古屋営業所	〒464-0083	愛知県名古屋千種区北千種 2-3-18 1F		TEL 052-778-7272
広島営業所	〒721-0955	広島県福山市新深町 3-27-8		TEL 084-953-8818
仙台工場	〒981-0504	宮城県東松島市小松字総田 110		TEL 0225-82-8111
稚内工場	〒097-0001	北海道稚内市末広 5-35-1		TEL 0162-32-8111
物流センター	〒981-0504	宮城県東松島市小松字総田 108		TEL 0225-82-8154
第二物流センター	〒721-0955	広島県福山市新深町 3-27-8		TEL 084-953-8818

